

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3371100417		
法人名	合資会社 中藤		
事業所名	グループホーム 青い鳥②		
所在地	備前市吉永町南方652-1		
自己評価作成日	平成22年8月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成22年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所拒否しないように、皆様困って玄関をたたかれる。それに対して我々は、相談に対応したい。散歩に特に力を入れています。暇があれば行くこと、ドライブは、季節の行事を行うように力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

系列のグループホーム開設から約2年後に開設された事業所です。経営者の想いが前面に出た初期の施設から、より利用者本位のケアが出来る施設(設備)に改善された跡が窺えました。離職者が多い介護事業の中で開設当初からの職員が頑張っているのを見させていただきました。順風満帆な道のりではなかったと思いますが、経営者、管理者、職員がそれぞれの立場において努力・改善に努力された結果が、利用者の安定した日々の暮らしに反映されていました。地域密着型施設としての役割も果たされ、地域に溶け込んでいました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭の延長、その人らしく、自分らしくを理念とし、今まで自宅で使用していたなじみのものを使って頂き、一人ひとりを大切に、個々のペースに合わせた介護を行っています。	「その人らしく」を理念に掲げ、地域社会の一員として生活できることを大切にしたい理念を実践されていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での奉仕作業、ゴミボックスの清掃等に参加すると共に、地域の民生委員さんによるボランティア(窓拭き・草取りなど)の協力もえています。	まだ充分とはいえないけれど地域の一員として共に生活されている姿がみられました。大きなことだけでなく、小さな日常的なことの積み重ねに努力をされていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所で行うクリスマス会では、地域の方々にもチラシを配り、一人でも多く参加して頂き、事業所内の様子を見て、少しでも理解して頂けるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開いている運営推進会議では、市の担当者、地域の方、家族の方、職員の出席により、事業所内の現状報告、それぞれの情報交換・意見交換を行っています。	運営推進会議も定期的開催が出来るようになった。職員も参加し運営推進会議を活用し、事業所全体の質の向上に活かされていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	上記の運営推進会議に必ず出席して頂いており、事業所の実情などについても、意見交換を行っています。	運営推進会議も積極的に参加がみられる様です。日常的に報告・相談が出来ていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、人間の尊厳に関わる問題であり、理解しています。身体拘束に至る要因を考え、より良いケアを目指していますが、利用者の状況等で、一時的に玄関を施錠をせざるを得ないことがあります。	管理者・職員共に、身体拘束とは何かを考え、日常のケアの中に潜む身体拘束を常に意識をした介護に努力されていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護上での問題点は、職員間でその都度話し合い、又、事業所、管理者に相談し、虐待の防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	代表者が対応しています。 申し出があれば、利用できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族より聞かれたら、いつでも説明できるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回開いている運営推進会議に家族の方も参加して頂き、意見交換をしております。家族がどの様な視点からグループホームを見て、どの様なことを望んでいるか、より多くの意見を聞き、より望ましいグループホームになるよう努力しています。	運営推進会議を利用して、ご家族からの意見をいただき、運営に役立てる努力をさせていただきました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、全職員参加でミーティングを行っています。その場で意見交換を行っています。	職員会議を定期的に行い、職員が意見を出しやすい環境作りをさせていただきました。	組織があまり大きくなく、経営者の思いが前面に出がちであるが、チームケア・職員連携の観点からも今取り組まれている現場重視の運営に今後も期待いたします。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい職場になる様に、職員個々の意見を聞く場を持って下さいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会、講演会等に、参加する機会を与えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	備前市にある1つのグループホームと交流を持ち、職員が相互訪問をして、いろいろ勉強をさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	と	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人、ご家族と面談、困っていること・要望、本人の現状を把握し、環境が変化しても安心して生活できるようにコミュニケーション作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談等で、要望等を把握し、ケアプランを作成する。ご家族との連絡を密にし、ケアプランの見直し作成をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後の本人の様子等、ご家族と連絡・相談をし、必要な支援を見極め、対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に食事をしたり、お茶を飲んだりしています。また、散歩に行ったり、レクリエーションなども一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、家族と一緒にゆっくり話が出来る様に気をつけています。利用者の生活状況は、毎月家族にお知らせしています。必要な情報はもちろん、ちょっとした変化などについてもご家族へ連絡するように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人、友人の面会時、一緒にお茶を飲みながらゆっくり過ごせるように心掛けています。また、友人・知人が気兼ねなく訪れて頂けるよう、事業所内の雰囲気、職員の対応にも気をつけています。	家族、ご友人、地域との交流、馴染みの関係が継続されている支援がうかがえました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他人と一緒に生活していく中で、家族同様に、支え合えるよう支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの行事に参加して頂いたり、他施設に行かれた方の面会等、相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人と出来るだけ会話し、希望等が聞き出せるように努めている。	本人本位を聞き出す支援をしながら生活のあらゆる場面で実践されていました。また、家族ともよく相談をされているように見えました。職員の細かな気配りを感じました	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャー、ご家族、ご本人より情報を収集しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族より詳しく情報を収集し、入所後は、本人の生活状況を様子観察、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状況改善に向けて、モニタリングを行い、現状に即したサービス提供が出来るようにしています。	家族と本人が以前の生活を考慮し、現場職員の意見、ケアマネの意見、管理者の意見を尊重した多面的な観点から計画作成が出来るように努めておられました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を細かく個別記録に記入し、常に、全職員が把握出来るようにしています。問題点があれば、その都度話し合うようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズ問題が起きた時点で、ご家族と相談し、本人に合った対応が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周りの散歩が出来るように支援したり、敬老会など地域の行事にも参加出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は主に、家族と一緒に行くが、家族の希望で事業所より受診することもあります。	家族の協力を常にお願ひし事業所だけが頑張る支援でなく、家族・事業所が連携の取れた医療支援がなされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内の、看護職経験者に異常発生時には相談し、また、看護職経験者もかかりつけ医に、連絡・相談をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、職員が毎日洗濯物を取りに行っています。そのときに、情報を聞いてくるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人と、ご家族と話し合いながら、医療との連携を図っている。	終末期の対応は、現状ではなかなか大変であるとお答えでしたが、出来ることは検討しながら対応していきたいとの思いももたれていました。	現状ではなかなか、難しいかも知れませんが、職員教育の観点からも前向きな対応を期待します。地域の連携(医療)も視野に入れた、関係作りの構築に期待いたします。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎日のバイタルチェックで一般状態の観察をし、異常の早期発見に努めています。異常時は、救急車の応援をお願いしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回避難訓練を行っています。スプリンクラーも設置され、自動火災報知設備の説明会も全職員が聞きました。	災害対策訓練が実施されました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に笑顔で、穏やかに接する様に心掛けています。	職員の、細やかな配慮が感じられました。利用者に対する節度ある対応が、自然な形で実践されていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を言い出せるように、コミュニケーション作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜間不眠の人は、起床を遅らせたり、日中自室で横になりたい人は、自室で過ごして頂いたり、食事形態もその人に合った食事を提供しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身の回りの清潔保持に心がけ、声かけをしています。自ら服を選んだり、身だしなみを整えることが出来ない方には、季節感のある適切な衣類を着ようお手伝いをしています。「良く似合っていますよ」などの声かけもしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者それぞれの力を活かして、野菜を切ったり、味付け、洗い物等一緒にしています。季節感のあるメニュー作り、盛り付け等、食事の場が和やかになるように心掛けています。	地元の食材を活用して手作りの食事が提供されていました。梅干などの保存食も一緒に作ったりして、食べる楽しみと作る喜びもケアの中で実践されていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量・形・かたさ等、一人ひとりの状態に応じた支援をしています。咀嚼、嚥下機能に対応した食事、また、残食の有無のチェックもしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがい、入れ歯の洗浄は自力されている方はできています。就寝前の口腔ケアは、入れ歯を外し、義歯用洗浄剤の中に浸しておくようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎月、排尿。排便チェックをすることで、一人ひとりのパターンをチェックし、状態把握に努めています。尿意・便意のない方に対しては、排泄の誘導をすると共に、排尿・排便前のサインを見逃さないように努めています。	限られた空間の中で、その人その人に合わせた対応に心掛けていました。職員の配慮が随所に窺がえる支援でした。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操など、日常生活で適度な運動、腹部マッサージ等を行っています。排便パターンを確認し、心身への影響が起らないように処方されている薬でコントロールさせて頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	急変なども考えて、日曜日等、病院が休みの日には入浴を控えています。それ以外は、個々のバイタルチェックで一般観察を行い、残存能力を活用し、気持ちよく入浴して頂けるよう支援しています。	個々に沿った入浴支援がなされていました。体調等の都合、状態に似合った支援が窺えました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の明るさ、室温調節、ベッド周辺の環境整備、なじみのものを置き、安心して安眠できるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の個人記録に、今内服している処方を添付して、いつでも確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に役割を持ち、できることをして頂いています。興味のあるレクリエーションに参加することや、散歩、外出、体操など気分転換できるよう心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたり、また、季節を感じて頂くため、梅見、桜見、紅葉を見に出かけたり、希望があれば、ドライブをしています。	利用者にあわせ日常生活の中で、近所にお散歩といった感じの外出できていました。職員と和やかに外を散歩する姿は地域に根を張った感じが窺がえました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のご家族の方よりお金を預かり、毎月収支は、領収書を添付して、ご家族の方に、残金を確認して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知の状態でも可能な限り、家族の希望も踏まえた上で、やり取りができるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活環境に気を配り、四季折々、季節感を感じて頂けるよう、利用者の方と一緒に、折り紙で壁画を作って飾ったりしています。また、玄関、ホールなどに、季節の花を生けるようにしています。	外の光をうまく活用し、ほっと出来る、共同空間づくりが出来ていました。隠れ家的な空間を作ることにより、自室だけでなく、共用空間の中にも個人スペースがあるのが良かったです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室である居室で過ごされたり、安心して過ごせる好みの場所(ホールのソファ、テーブルの椅子等)でおしゃべりしたりして、思い思いに過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談し、居心地よく、安全で安心して過ごせるようにしています。	馴染みの使いなれた家具等を持ち込まれたり、その方の個性・身体能力に合わせた部屋づくりに心がけていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子、テーブル等、配置などで事故が起きないように工夫・改善を行っている。		